

水道の普及

県補助金で供給施設を

基本計画見直しの中で



もり はるし 議員
森 治史

で2ヶ月毎に配達される水の通信販売を利用している方がいる。これらの家では水圧が足りないため洗濯機や瞬間湯沸かし器が使用できないと聞く。町は高知県中山間地域生活支援事業の申請をし、飲料水供給施設を設置すべきではないか。

問 町内の水道普及率は97・9%に達しているが、まだ一部の地区では未給水の所がある。しだの川地区の奥の三軒では一番奥の方は前の川から家庭用ポンプで汲み上げており、手前二軒については向いの上の水源からパイプを引き、問題が起きると別の地区に住んでいる息子さんが修繕に來られて使用されている方と、自宅裏山の沢から落差を利用してタンクに飲料水としていたが、沢に猪が頻繁に表れるので、毎月薬を飲む関係

いきたい。

家庭排水

町道側溝の改良を

地域整備で検討する

問 大方高校下の町道西側側溝は幅20cm、深さ16cmしかなく勾配も足りない。以前は家のない場所だったが現在は住宅が5軒建っており、家庭排水が十分に流れるようにゴミ置き場から約50mの間にいて、高校裏のような広い側溝に改良をすべきではないか。

また入野小学校の西にある西川池（農業用の灌漑溜池）へ日常生活排水が流れ込まないようにして欲しいとの耕作者の方々の要望の声があるが、その対策と側溝改良について問う。

答 森田 まちづくり課長

側溝については施工時には住宅も少なく、排水処理ができていたと考えるが、近年は住宅も増え、生活排水や路面排水の水量を考えると通水断面が不足しているのではないかと認識をしている。なお、地区からの要望もこの個所について出てきており、現地の排水状況を調査の上で改良事業については地域整備事業での対応になるうかと考えるが、どうにか今年あたりに検討していきたい。



しだの川地区奥の水源